

令和5年度 東京都立秋留台高等学校 学校経営計画

目指す学校			
共生社会の担い手として、社会に貢献するたくましい勤労者を育成するために、学習指導・生徒指導・部活動指導他全ての教育活動における指導をととして、生徒一人一人の進路実現を果たしていくことを目標とする。そのために、とことん厳しく、とことん面倒見の良い学校として、学び直しによる基礎基本の定着、生活習慣の確立と規範意識の醸成、段階的・組織的な進路指導を行い、生徒を励まし・勇気づけ・応援しながら可能性を伸ばし、社会人としてより良く生きていくための力を育成していく学校づくりを目指す。			
	中期的目標と方策	今年度の取組目標と具体的方策	関連する数値目標等
1 学習指導	<p>1 生徒の基礎学力を伸ばすための授業改善・授業力向上を図る。特に「学び直し」の学習支援を組織的に行うことによって、基礎学力の定着を図っていく。</p> <p>2 「学びの基盤プロジェクト研究協力校」「スキルアップ推進校」として、読解力や自ら学ぶ力を育成するとともに、社会的実践力（グローバルスキル・デジタルスキル・コミュニケーションスキル）を伸ばすための体制づくりを確立する。</p> <p>3 新学習指導要領の実施にあたり、すべての教育活動の質の向上を目指すために、「東京教育DX推進校」として、TOKYO スマート・スクール・プロジェクトに基づき、教育のデジタル化を推進していく。</p> <p>4 「特別支援教室及び通級における指導に関する研究」協力校として、通級指導の充実を図る。</p>	<p>(1) 「アキルスタンダード」に基づき、基礎基本の定着を図るとともに、主体的・対話的で深い学び（分かる授業、やり取りのある授業、学んだことが深まりつながっていく授業等）の授業実践を通して、生徒の「分かった・できた」をねばり強く応援しながら、思考力・判断力・表現力の育成を図り、「自ら学ぶ力」を養う。</p> <p>(2) 「朝の30分授業（ベーシックⅡ・セルフマネジメント）・ベーシックⅠ」等特色ある授業のさらなる工夫・充実を図り「学び直し」（自立活動）の質を高めていく。</p> <p>(3) 教科会・教科主任会等を通じて、評価方法や観点別学習状況評価の精度を高め、適切な学習指導につなげていく。</p> <p>(4) 教科、学年で資格取得（英検・漢検・数検・情報処理の資格等）に向けて組織的な指導を行うとともに、外部人材等を活用し、個に応じた学習を支援していく。</p> <p>(5) 「主体的な学びにつながるよりよい授業づくり」を目指すために、デジタル（スマートスクール・生徒一人一台端末）活用をさらに推進していく。</p> <p>(6) 校内の教員同士の相互授業見学や校外での研修に積極的に参加し、学校全体で授業力向上に向けた取組を実施していく。</p>	<p>①生徒による授業満足度向上</p> <p>②英検・漢検・数検等の資格取得者（合格者）の増加</p> <p>③教員同士の相互授業見学（年3回以上）の実施率90%以上</p> <p>④ICTやオンライン（Teams）、スマートスクール（生徒一人一台端末）等を活用した授業実践の向上及び生徒の活用技術の向上</p>
2 進路指導	<p>1 最後まであきらめずに進路実現を果たすための支援を行う。</p> <p>2 3年間を見据えた段階的・組織的（知る・学ぶ→考える・絞る→固める・決める）な進路指導体制の実践。</p> <p>3 インターシップ・進路ガイダンス・分野別ガイダンス等地域を始めとした外部人材を活用した交流等様々な進路行事を通して、変化する社会に柔軟に対応する力を養い、自己の役割や責任感を果たすことにより、生徒の健全な勤労観と自己肯定感を育成する。</p>	<p>(7) 生徒一人一人の進路意識が向上するよう、進路選択に向けた組織的な指導を適切に行う。</p> <p>(8) 進路指導部と学年・担任、教科が情報を共有し、生徒・保護者に最新の進路情報や生徒状況を提供し、「チーム秋留台」で同じ目線にたって進路活動を実施し、進路実現を果たしていく。</p> <p>(9) 進路ガイダンス・分野別ガイダンス・インターシップ・学校説明会等の進路行事の内容を充実させる。</p>	<p>⑤進路決定率100%</p>
3 生活指導	<p>1 生徒に寄り添い、向き合いながら、ねばり強い指導を行い、規範意識を身に付けさせ、基本的な生活習慣を確立させるとともに、自律的な生活態度の育成を図る。</p> <p>2 生命を大切にし、お互いを尊重する意識を醸成し、暴力やいじめのない安全安心な学校づくりを目指す。</p> <p>3 安全で落ち着いた教育環境づくりと校内美化活動を徹底し、より良い学習環境づくりを目指す。また、防災訓練やセーフティー教室等を通じて、自助・公助・共助を理解するとともに、命を大切にする心や他人を思いやる心を育み、安全に対する意識の向上を図る。</p>	<p>(10) 全教職員が一致した指導を組織的にを行い、HR、授業（学校設定科目セルフマネジメント等）、部活動、各集会等あらゆる教育活動を通じて、生命の大切さ・基本的生活習慣（挨拶の励行・時間厳守・授業規律、遅刻指導等）・ルールやマナー（頭髪服装身だしなみ等）・通学マナー・SNSルール等を身に付けさせ、自ら考え行動できる自主性や自己管理能力を育む指導を行う。</p> <p>(11) 暴力、いじめ、窃盗等の問題行動に対して厳格に臨むとともに、特別支援教育及び自立支援コーディネーターを核として、スクールカウンセラー・ユースソーシャルワーカー等の専門家や関係機関と連携しながら未然防止、早期発見、早期対応に向けた取組を行う。また教育相談を充実させ、生徒への支援を行うとともに、相談しやすい体制や環境づくりを推進していく。</p> <p>(12) 経営企画室と連携して、安全管理・教室内の整理整頓、環境美化に努めるとともに、生徒が主体となって校内外の美化活動や防災活動を行うよう指導していく。また、マナーキャンペーンを通じて、交通安全指導を充実させ、通学時におけるルールやマナーを遵守させる。</p>	<p>⑥転退学者の減少</p> <p>⑦遅刻回数の減少</p> <p>⑧生徒相談員会、ケース会議の開催100回以上</p>
4 特別活動・部活動健康づくり	<p>1 生徒同士が協働し、相互に高め合う集団づくりを行い、学校への帰属意識を高め、学校行事の更なる充実を図る。</p> <p>2 部活動の活性化を図り、生徒の主体的な参加を通じてスポーツや文化活動に親しみ、これまで培ってきたオリンピック・パラリンピック教育の活動を「東京2020レガシー」の構築に向けて推進していく。</p> <p>3 基礎体力や運動意欲の向上及び心身の健康づくりの取組を活性化させる。</p> <p>4 図書館が情報発信の中心となるように、図書館を教科の授業、学校行事、探究活動等あらゆる場面で活用できる体制づくりを行う。</p>	<p>(13) 生徒会や委員会活動を活性化させ、学校行事のねらいを達成するとともに、行事を通じて生徒に成就感や達成感を体験させ、生涯にわたってスポーツや文化・芸術等に親しむ素地を養う。</p> <p>(14) 部活動の加入の奨励と部活動を継続させる働きかけを行い、部活加入率の維持向上を図る。また、部活動に関する活動方針に基づき、チームワークづくりを重視し、学年を超えて生徒同士が高めあう集団づくりを行うことができるよう指導していく。</p> <p>(15) 保健体育の授業、部活動、体育的学校行事を通じて、健康づくりの基礎知識や基礎体力向上のための習慣を身に付けさせ、生徒の心身の健康づくりのための相談・支援体制を強化する。また国際理解やスポーツへの興味・関心を増幅させ「東京2020レガシーの構築」を実施していく。</p> <p>(16) 授業や行事等（ベーシックⅡ・読書マラソン）のあらゆる教育活動を通じて、図書館を積極的に活用し、読書活動や生徒同士の主体的な活動の取組を強化する。</p>	<p>⑨学校生活の充実度向上</p> <p>⑩学校行事の充実度向上</p> <p>⑪部活動の加入率年度末70%以上</p> <p>⑫体力テストによる生徒平均が全項目で都平均値以上</p> <p>⑬図書館の利用率向上</p>
5 募集・広報活動・地域貢献	<p>1 募集・広報活動の工夫・改善により、推薦に基づく選抜及び学力検査に基づく選抜（前期・後期）の応募倍率の向上を図る。</p> <p>2 「都立高校PR事業指定校」として、HP等の広報活動を活性化し、学校からの情報発信を積極的に行っていく。</p> <p>3 開かれた学校づくりを推進するために、地域活動へ積極的に参加し、地域貢献を行うことにより、地域から信頼される学校づくりを行う。</p>	<p>(17) 学校説明会・学校見学会・個別相談会の内容を工夫し積極的な取組を行い、中学生に本校の魅力をアピールし、本校を第一志望とする生徒を増やしていく。</p> <p>(18) 「秋留台通信」や「今日の秋留台」等を発行し、ホームページ等を通じて学校の様子を保護者・中学生・地域に発信していく。</p> <p>(19) 地域活動やボランティア活動等を通じ、生徒の自主性を養い、コミュニケーション能力や表現力を身に付けさせる。</p>	<p>⑭推薦2.5倍、前後期1.2倍以上の応募倍率</p> <p>⑮HPの更新回数300回以上</p> <p>⑯学校説明会等来校者数の向上</p>
6 学校経営・組織体制	<p>1 企画調整会議の機能の活性化及び各種会議・研修会の活性化を図る。</p> <p>2 経営企画室と教員が一体となって教育活動を推進する。</p> <p>3 教育公務員として、高い使命感・倫理観をもって服務規律を遵守し、生徒・保護者・地域から信頼を得る。</p> <p>4 外部人材の有効に活用し「チーム学校」を創り上げ、ライフ・ワーク・バランスの推進への取組を促進する。</p>	<p>(20) 組織体制として、調整（分掌・学年・経営企画室が協力して意思疎通を図りながら職務遂行する）と協働（教職員一人一人が当事者意識を持ちチームとして動く）を重視し、企画調整会議やその他各種会議を単なる報告会でなく、情報共有、意見聴取、課題解決と新たな取組の場に変えていく。</p> <p>(21) 経営参画ガイドラインに基づき、学校経営を支える企画立案への積極的な取組と教員と経営企画室が一体となって学校経営上の課題をタイムリーに解決する。</p> <p>(22) 適正な予算編成と計画的・効率的な予算執行を実施。施設設備の安全管理・維持及び迅速な修繕を実施し、財産管理を適正に行うことによってリスクマネジメントを強化する。</p> <p>(23) 日常的な点検を怠らず、報告・連絡・相談を徹底する。また研修等を通じて体罰禁止や服務規律に対する意識を向上させる。</p> <p>(24) 「チーム学校」として外部人材を活用し、計画的な仕事の進行管理に基づき、業務の効率化を徹底し、教職員一人一人のライフ・ワーク・バランスの実現を図る。また、業務の無駄を省き、整理と縮減・削減、超過勤務時間の削減を推進する。</p>	<p>⑰各分掌が学校経営計画に基づき、PDCAマネジメント・サイクルを確立するために、各分掌の組織目標を設定し、中間総括及び年度末総括を実施</p> <p>⑱一般需用費の学校経営支援センター利用率65%以上</p> <p>⑲一般需用費の予算執行率100%</p> <p>⑳服務事故ゼロ、体罰ゼロ、会計事故ゼロの実施</p> <p>㉑教職員の個別の超過勤務時間の削減と年休取得率の向上</p>